

The 2nd Summer School on Analytical Political Economy: Equality and Welfare
のご案内

一橋大学Global COE プロジェクト企画

昨年度に引き続き、今年も(アナリティカルな)政治経済学のフロンティアに関するサマー・スクールを開催します。この分野に関心のある大学院生や学部上級生、ないしはこの分野での将来の研究者としての潜在能力に関して推薦された大学院生・学部上級者・ポストクラスの若手研究者を集めた集中講義を実施致します。

このスクールの企画目的は、この分野に従事する、国際的にも通用する先端的研究者の育成に寄与する事です。スクールの内容は、現代経済学に存在する多様な諸アプローチ、それぞれの基礎理論の講義と、その先端的研究分野への導入的講義という構成になっています。これら多様な諸アプローチに基づく経済分析の方法を学ぶ事で、経済学の新たな研究のフロンティアを切り拓いていける契機になる事を願っています。

以下が当サマー・スクールのコース予定です：

一橋大学 G-COE 企画

「The 2nd Summer School of Analytical Political Economy」プログラム

会場：一橋大学東キャンパス第3研究館

1. 8月30日

午前の部：司会：吉原直毅

9時～10時半&11時～12時半：

Economics and Philosophy

講師：後藤玲子、立命館大学先端学術研究科

概要：

1. 潜在能力アプローチとリベラリズムの新たな展望——人権概念の歩みと経済学の貢献
2. 「税と社会保障の一体改革」を透かして見れば？——連続性と断絶の哲学

12時半～14時半：ランチ&若手研究者によるショート・プレゼンテーション

午前の部：司会：後藤玲子

14時半～16時&16時半～18時：

Introduction to Political Economy: Historical and Sociological

Foundation of Economics

講師：佐々木隆生、北星学園大学経済学部

概要：

1. Political Society の Economy についての学としての Political Economy—種々の政治経済学概念の検討を含めて
2. Political Society と市民的経済社会の誕生—Societas Civilis からの State の疎外、その Civil Society との対立・相対
3. Political Economy の対象：市場社会・経済社会・政治社会
4. Political Economy と Economics

8月31日

午前の部：司会：吉田博之

9時～10時半&11時～12時半：

Marxian Economic Theory

講師：吉原直毅、一橋大学経済研究所

概要：

1. 資本主義経済システムに関する理論的視座
2. 資本主義経済システムのマルクス派的基礎理論：労働搾取理論
 - 1) 搾取概念に関する多様なアプローチ (Marc Fleurbaey)
 - 2) 資本主義的搾取の歴史的な原基形態に関する契約理論的分析 (Gil Skillman)
 - 3) 労働搾取の継起的生成に関する動学的な一般均衡分析 (Veneziani & Yoshihara)
3. 資本主義経済の長期的傾向論
 - 1) マルクス「利潤率低下の傾向法則」と「置塩定理」
 - 2) Okishio (2000)における「置塩定理」自己批判

12時半～14時半：ランチ&若手研究者によるショート・プレゼンテーション

午後の部：司会：吉原直毅

14時半～16時&16時半～18時：

History of Economic Theory: Adam Smith, David Ricardo, Leon Walras (仮題)

講師：丸山徹、慶応大学経済学部

概要：

9月1日

午前の部：司会：大野隆

9時～10時半&11時～12時半：

Introduction to Mainstream Macro Economics

講師：吉田博之、日本大学経済学部

概要：

1. 異時点間の最適化問題の基本について解説する。

まず、Hamiltonian の解法のレシピを提示し、その経済学的意味の説明をすることによって直観的な理解を目指す。

2. 標準的なマクロ動学モデルを解説する。

Blanchard and Fisher (1989) Lecture on Macroeconomics や

Bagliano and Bertola (2004) Models for Dynamic macroeconomics などから

標準的な経済モデルを題材として選択し、解説する。

12 時半～14 時半：ランチ&若手研究者によるショート・プレゼンテーション

午後の部：司会：吉田博之

14 時半～16 時&16 時半～18 時：

A Dynamic Theory of Stagnation : Dynamic Theory and Keynes's Economics

講師：小野善康、大阪大学フェロー

概要：

日本経済は長期不況にあり、2008 年以降は欧米各国も同様の状況であるにもかかわらず、新古典派経済学もニュー・ケインジアンも一時不況を説明する理論しか持っていない。本講義では、動学的最適化を前提とする一般均衡理論の枠組みで、長期不況を説明する理論を提示する。さらに、それを応用して、長期不況に必要な経済政策を考える。

9 月 2 日

午前の部：司会：佐々木啓明

9 時～10 時半&11 時～12 時半：

Introduction to Post-Keynsian Economics

講師：大野隆、立命館大学経済学部

概要：

ポストケインズ派の諸学派を概観しつつ、各主体のマイクロファウンデーションを考慮したモデルへの拡張を試みる。

具体的には、企業の参入退出による独占度への影響、個別企業の投資関数と参入阻止行動、各主体の消費行動である。

これら要素を新たに組み込んだポストケインズ派のモデルを用いて、安定性や最適な政策を考察する。

12 時半～14 時半：ランチ&若手研究者によるショート・プレゼンテーション

午後の部：司会：大野隆

14 時半～16 時&16 時半～18 時：

International Trade and Uneven Development

講師：佐々木啓明、京都大学経済学研究科

概要：

貿易に従事する 2 国の経済発展パターンが異なる現象は「不均等発展」として知られている。本講義では、いくつかのモデルを用いて、不均等発展が生じるかどうかを解説する。より具体的には、国際貿易を行うことにより、2 国間の所得格差および成長率格差が拡大するのか縮小するのかを論じる。

追記 1：8 月 30 日、31 日、9 月 1 日、2 日の各ランチタイム時間内に、もし希望者があれば、スクール出席大学院生・若手研究者等の研究プレゼンテーション（ランチ・ショート・スピーチ）の機会を設ける予定でいます(一人当たり約 30 分程度)。当サマー・スクール出席希望者で、研究プレゼンを希望する者は、参加申請手続き時に、連絡ください。

追記 2：当サマー・スクール出席希望者の中で、地方在住の大学院生や学部生等に対して、交通費の補助支給を予定しています。但し、大学院生でこの交通費補助を申請希望の者は、ランチ・ショート・スピーチでの研究プレゼンを一度は行う事を条件とします。

参加申請手続き：

名前・所属大学・身分・研究テーマ・当サマー・スクールに出席希望の動機について記載した申請書(書式は以下に添付)を

G-COE 秘書室の高田智恵子宛(takada@econ.hit-u.ac.jp)にご提出ください。

受付締め切り：7 月 30 日

また、学部生ないしは大学院生の参加申請者は、**指導教員の推薦書**を付してください。

文責：吉原直毅

一橋大学 Global COE プロジェクト企画
The 2nd Summer School on Analytical Political Economy
出席申込書

名前：

所属：

主な研究テーマ：

当サマー・スクールに出席希望の動機と目的：

・ランチ・ショート・スピーチでの研究プレゼンを希望しますか？

Yes, No

・交通費補助を希望しますか？

Yes, No

大学院生・学部生の参加申請者の場合の指導教員の推薦書

推薦対象者名

推薦文記入欄

推薦者氏名 _____

所属 _____